

目標	Ⅲ	健やかな体の育成		
施策	9	健康の保持増進		
主な取組	○ 学校保健の充実			
	○ 妊娠・出産・不妊に関する知識の普及啓発と性に関する指導の推進			
	○ 薬物乱用防止教育の推進			
	○ 食育の推進			
	○ 基本的な生活習慣の確立に向けた支援			
担当課	保健体育課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
学校健康教育 推進費のうち 食育の普及拡大、 食物アレルギー・ アナフィラキシー 対応関係	1,887	<p>【食育の普及拡大】 児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるための取組を推進するため、教職員研修を実施するとともに、授業研究協議会等において情報提供や情報交換を行うことにより市町村教育委員会を支援する。</p> <p>○食育指導力向上授業研究協議会 ・開催校：小学校2校、中学校3校 ・参加者数：373人 ・内容：公開授業と講演会、研究協議</p> <p>【食物アレルギー・アナフィラキシー対応関係】 学校における食物アレルギー・アナフィラキシー対応の徹底を図るため、研修会を実施する。</p> <p>○教職員対象の研修会 ・動画配信研修 ・オンライン研修 参加者数：290人</p> <p>○市町村教育委員会担当者研修会 ・オンライン研修 参加者数：60人（47市町村申込）</p>	<p>食育指導力向上授業研究協議会では、県内の小学校2校、中学校3校での研究授業を通し、指導方法の工夫・改善を図ることができた。研究校のアンケート結果からは、食に関連した生活習慣の改善も見えており、児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるための取組を推進することができた。</p> <p>食物アレルギー・アナフィラキシー対応については、各研修会を通じて、多くの教職員に最新情報を共有することができた。このことにより、各校が適切に対応し、大きな健康被害が起こっていないことから、対応の徹底を図ることができたと考える。</p>	保体
学校健康教育 推進費のうち 性に関する指導 普及推進関係	277	<p>児童生徒の発達の段階に応じた、性に関する効果的な指導を推進するため、課題解決検討委員会、指導者研修会、授業研究会を開催する。</p> <p>○「性に関する指導」課題解決検討委員会の開催（4回） ・発達の段階に応じた指導法の研究・普及・実践</p> <p>○「性に関する指導」指導者研修会（147人）</p> <p>○「性に関する指導」授業研究会の開催（3回、87人）</p>	<p>課題解決検討委員会において、県作成資料を活用した指導法を研究し、指導者研修会や授業研究会を通じて、その普及・実践を図ったことで、児童生徒の発達の段階に応じた、系統性を踏まえた性に関する効果的な指導を推進できた。</p> <p>授業研究会では、ICTの活用やチーム・ティーチングなどの指導方法の工夫等による授業展開を提案することができたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加者数を限定しており、参加者数の拡大を図ることが必要である。</p>	保体

事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
学校健康教育 推進費のうち 薬物乱用防止 教育関係	75	<p>児童生徒に薬物の正しい知識を身に付けさせるため、大麻などの最新の情報を取り入れた薬物乱用防止教育に取り組む。</p> <p>○教員と外部指導者の指導力向上のための研修会の実施 参加者数：119人</p> <p>○薬物乱用防止教室の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における保健計画に位置付け、年1回以上開催するよう依頼 ・令和4年度 薬物乱用防止教室実施率 小・中学校、義務教育学校、高等学校 100% 特別支援学校 83.3% 	<p>薬物乱用防止教育研修会の実施により、各学校における薬物乱用防止教育の充実が図られると期待できることや、各学校において薬物乱用防止教室が着実に実施されていることから、児童生徒に薬物の正しい知識を身に付けさせることができています。</p>	保体
学校保健総合 支援事業（がん 教育総合支 援事業）	1,582	<p>がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深めるため、がん教育に関する取組を実施する。</p> <p>○埼玉県がん教育推進連絡協議会の開催（2回）</p> <p>○がん教育指導者研修会（142人）</p> <p>○がん教育授業研究会（3回、159人）</p> <p>○がん教育外部講師研修会（50人）</p>	<p>学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を実施し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言を行うとともに、「がん教育推進連絡協議会」の委員が授業研究会において、授業の参観及び研究協議における指導講評を実施し、研修会及び授業研究会の参加者のがん教育についての理解を更に深めることができた。また、授業研究会の参加者数増加に伴い、がん教育の実践が多く教職員に広がることで、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深めることにつなげることができたと考えます。</p>	保体
望ましい生活 習慣を子供た ちに身につけ るための取組	0	<p>望ましい生活習慣を子供たちに身に付けるため、J A埼玉県中央会と埼玉県学校給食会の協賛を受け、朝食の重要性を伝える保護者向け食育推進リーフレットを作成・配布する。</p> <p>また、個別の健康課題を踏まえた指導の充実のため、定期健康診断などの結果を家庭に知らせ、必要に応じて養護教諭、学校医等による健康相談・保健指導を実施する。</p> <p>○保護者向け食育推進リーフレットの作成・配布 配布先：県内公立小学校1・5年生、中学校1・3年生全家庭 (部数：約21万部)</p> <p>○県PTA連合会の会合における食育に関する講話の実施</p> <p>○養護教諭、学校医等による健康相談・保健指導の実施</p>	<p>食育推進リーフレットの保護者への配布を通して、学校と家庭の連携を図ることができた。また、令和4年度は新たに、県PTA連合会の会合で食育に関する講話を行い、保護者に直接朝食摂取や食育の重要性を伝える取組を実現したことにより、望ましい生活習慣を子供たちに身に付けるための取組の充実を図ることができた。</p> <p>全ての学校が、定期健康診断の結果、異常が認められた児童生徒に対して医療機関受診の通知をした後、結果を確認している。異常が認められなかった児童生徒にも結果を知らせている。また、全ての学校で、健康相談と個別の保健指導が実施され、その多くで学校医等との連携が図られ、個別の健康課題を踏まえた指導を充実させることができています。</p>	保体
児童生徒のため の体力向上 推進事業のうち 体力課題解決 研究指定校 / 「生活習慣診 断シート」の 活用	460	<p>児童生徒の体力向上に向けた取組を推進するため、体力課題解決研究指定校（2年間の研究指定）において運動習慣を含めた生活習慣の改善を図る取組等を研究実践するとともに、その成果を全県に発信する。</p> <p>また、児童生徒の生活習慣の改善を図るため、家庭と連携し体力向上プロフィールシートの活用を促す。</p> <p>○体力課題解決研究指定校 (令和3、4年度指定) 小学校5校 (令和4、5年度指定) 小学校6校・中学校1校</p> <p>○各種調査結果の情報提供</p> <p>○体力向上プロフィールシートの活用</p>	<p>体力課題解決研究指定校の実践により、感染症対策を徹底しながら、児童生徒の運動習慣と生活習慣の改善に向けて様々な工夫した取組を行ったものの、児童生徒の生活様式等の変化に伴い、スクリーンタイムが増えた結果、肥満傾向の児童生徒が増加傾向である。そのため、児童生徒の体力向上に向けた取組を推進しているが、児童生徒の体力の数値は低下が続いている。</p> <p>そのため、低学年のうちから規則正しい生活習慣を身に付けられるように、各学校が保護者に対して、保健体育課ホームページに掲載している「生活習慣診断シート」の積極的な活用を促しており、児童生徒の生活習慣改善のきっかけづくりとすることができた。</p>	保体

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●毎日朝食を食べている児童生徒の割合 (%) [出典：全国学力・学習状況調査]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小6</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小・割合</td> <td>86.6</td> <td>88.5</td> <td>—</td> <td>87.0</td> <td>85.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td>87.3</td> <td>88.0</td> <td>88.7</td> <td>89.4</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中3</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中・割合</td> <td>80.7</td> <td>83.3</td> <td>—</td> <td>81.6</td> <td>79.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td>82.6</td> <td>84.5</td> <td>86.4</td> <td>88.3</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>【原因分析】 令和3年度は、リーフレットや研修においてこれまで以上に「朝食」に焦点化して食意識の向上を図ったが、数値の上昇は見られなかった。 コロナ禍における臨時休業や分散登校、部活動の停止等により起床時間が不定期になった可能性があり、このことは全国学力・学習状況調査における「毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合」が令和元年度以降減少していることから推測される。 起床時間の不定期化が朝食を摂る習慣に影響し、登校時間が通常に戻ってからも朝食を摂る習慣までは元に戻っていないことが一因ではないかと考えている。</p>		H30	R1	R2	R3	R4	R5	小・割合	86.6	88.5	—	87.0	85.4		年度目標値		87.3	88.0	88.7	89.4	90.0		H30	R1	R2	R3	R4	R5	中・割合	80.7	83.3	—	81.6	79.6		年度目標値		82.6	84.5	86.4	88.3	90.0	<p>保体</p>
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																						
小・割合	86.6	88.5	—	87.0	85.4																																							
年度目標値		87.3	88.0	88.7	89.4	90.0																																						
	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																						
中・割合	80.7	83.3	—	81.6	79.6																																							
年度目標値		82.6	84.5	86.4	88.3	90.0																																						
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>広い意味での生活習慣に関わる課題は、解決・解消のために学校と家庭との連携が不可欠であることが難しい点でもあると感じる。各課題に対する教員研修の実施や、リーフレット、プロフィールシートを通じた保護者への情報発信は相応に実施されているが、家庭間の認識格差等の影響が非常に大きいことが容易に推測できる。その点からしても、課題を抱えている児童生徒やその家庭がどのようなニーズを抱えているかを吸い上げるような場を充実させていくことが期待される。</p> <p>全国展開している学習塾による調査でも、子供が朝食を食べない理由の1位は「起床が遅く時間が無い」という結果であった。埼玉県が行っている調査で、子供の生活に占めるスクリーンタイムの時間が年々増加しており、睡眠時間の確保を含めた生活習慣全般の改善について、家庭とも協力し指導をお願いしたい。</p>																																											
<p>今後の取組</p>	<p>生活習慣の確立に向けて、望ましい食習慣の形成に取り組む。具体的には、朝食を摂ることでよい生活リズムを生み出すことを目指し、朝食の重要性や家庭での食の大切さについてリーフレットを配布することなどにより、啓発する。また、様々な教育活動に食育の視点を取り入れられるよう、児童生徒及び教職員の意識を高める取組を行う。さらに、県PTA連合会等と連携を図り、児童生徒や家庭におけるニーズを把握するとともに保護者に直接朝食摂取や食育の重要性を伝える取組を行う。</p> <p>「性に関する指導」授業研究会については、運営方法の見直しなどにより参加者数の拡大を図りつつ、引き続き効率的な「性に関する指導」の普及・実践を図る。</p>		<p>保体</p>																																									

目標	Ⅲ	健やかな体の育成		
施策	10	体力の向上と学校体育活動の推進		
主な取組	○ 児童生徒の体力の向上			
	○ 体育的活動の充実			
	○ 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質の育成			
	○ オリンピック・パラリンピック教育の推進（再掲）			
	○ 持続可能な運動部活動の運営			
担当課	高校教育指導課、保健体育課、義務教育指導課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
児童生徒のための体力向上推進事業のうち 新体力テストの実施 / 体力プロフィールシート等の活用の推進 / 成長の記録の共有・活用・研究	2,925	<p>児童生徒が自己の体力を理解し、自ら健康の増進・体力の向上を目指し取り組むことができるようにするため、新体力テストを実施する。また、教員が児童生徒の体力の実態を把握できるようにするため、新体力テスト実施の際、体力プロフィールシート等を活用する。</p> <p>○新体力テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果を体力分析に活用している学校の割合 小学校：98.4% 中学校：100% 高等学校（全日制）：98.5% <p>○体力プロフィールシート等の活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力プロフィールシートを活用している学校の割合 小学校：99.3% 中学校：100% 高等学校（全日制）：97.1% <p>○成長の記録の共有・活用・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力課題解決研究指定校 （令和3、4年度指定）小学校5校 （令和4、5年度指定）小学校6校・中学校1校 <p>○体力向上推進委員会の開催（年2回）</p> <p>○体力向上に係る有効な取組についての発信</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の長期にわたる影響等により児童生徒の体力は全体的に低下している状況であるが、各学校は体育授業や新体力テストの実施に際して、体力プロフィールシート等を有効に活用し、児童生徒一人一人の実態把握と分析に応じた指導を行うことができています。</p> <p>また、児童生徒自らが健康を増進し、体力を向上させようとする意識の醸成に貢献できている。</p>	保体
学校体育実技指導研修事業	1,396	<p>教員の体育実技指導についての資質向上を図るため、県内小・中・高等学校の教員を対象にした実技研修会や講習会を実施する。</p> <p>○指導者講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校体育実技指導者講習会：全2回 参加者数：水泳運動系60人、ボール運動系56人、体づくり運動系49人・幼児の運動遊び48人、陸上運動系52人、保健領域49人 中学校・高等学校体育実技指導者講習会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から机上研修に変更 <p>○研究協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中・高の体育・保健体育研究協議会（オンライン開催） 	<p>小学校体育実技指導者講習会は、全ての運動領域及び保健領域の実施により、体育授業に関わる実技伝達を行うことができ、教員の实技指導力の向上と各地区の体育実技指導者の養成を行うことができた。</p> <p>中学校・高等学校体育実技指導者講習会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の理由から、講師による提供資料を基にした机上研修を実施し、一定の教員の資質向上につなげることができた。ただし、実技研修の実施ができていないため、研修の運営方法については検討が必要となる。</p>	保体

事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
運動部活動全国・関東大会派遣等事業のうち 運動部活動指導者研修事業	1,796	指導者の資質向上や、無事故での部活動を目指すため、運動部活動指導者講習会や登山部活動指導者講習会を開催する。 ○運動部活動指導者講習会（中止） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から資料提供に変更 ○登山部活動指導者講習会	運動部活動指導者講習会は中止とし、参加予定者に部活動指導や事故防止に関する資料を送付し必要な情報を周知することができたものの、指導者の資質向上の点においては、課題があったと捉えている。 また、登山部活動指導者講習会は、専門知識のある講師が登山活動に関する最先端の指導方法等を教授することにより、参加者の資質の向上を図ることができ、登山活動事故発生件数を0件とすることができた。	保体
運動好きな児童生徒の育成	882	運動好きな児童生徒を育成する取組を推進するため、運動好きな児童生徒育成検討委員会を中心に、体育・保健体育授業や体育的活動について検討を重ねていく。 ○運動好きな児童生徒育成検討委員会の開催 ○令和3年度作成したリーフレットの趣旨を踏まえた授業の様子を映像化し、県のホームページに掲載	運動好きな児童生徒育成検討委員会の取組と、授業映像の公開を着実に実施したことにより、運動好きな児童生徒を育成する取組の推進につながった。 今後、授業映像の視聴数を適宜確認しながら、映像公開等の効果検証の手法を確立する必要がある。	保体
埼玉県の部活動の在り方に関する方針	0	部活動を持続可能なものとするために、生徒にとって望ましいスポーツ、文化及び科学等の活動環境を構築する。 また、教員の負担を軽減するために、地域、学校、競技団体等が連携した多様な部活動の実施を目指す。 ○適切な休養日、活動時間の設定 ○部活動実施状況調査（令和4年6月）の結果 ①平均活動時間（運動部・文化部共通） 【中学校】 平日：1時間48分 週休日：2時間48分 【高等学校（全日制）】 平日：1時間50分 週休日：2時間30分 ②平均休養日1日未満の運動部活動数の割合 【中学校】 平日：2.4% 週休日：4.6% 【高等学校（全日制）】 平日：3.4% 週休日：15.1% ③平均休養日1日未満の文化部活動数の割合 【中学校】 平日：1.4% 週休日：1.7% 【高等学校（全日制）】 平日：3.1% 週休日：0.8%	令和4年6月に実施した「部活動における実施状況調査」の結果を基に、課題の見られた県立高等学校4校と市町村教育委員会4カ所を直接訪問し適正化に向けた支援を図ったことにより、おおむね各学校の部活動は持続可能となっているものの、一部の学校の部活動では、長時間の活動や休養日を設定していない等の課題がある。 多くの学校において、「埼玉県の部活動の在り方に関する方針」に沿った部活動運営を行っているため、活動時間の適正化や休養日の適切な設定が図られおり、教員の負担軽減が進んでいる。	保体 義指
部活動指導員の活用 → 施策18参照				保体 高指 義指

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●体力の目標達成状況 体力テストの5段階絶対評価で目標を達成した学校の割合（％） [出典：埼玉県児童生徒の新体力テスト]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>小学校</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> <tr><td>小・割合</td><td>75.1</td><td>75.9</td><td>71.4</td><td>—</td><td>48.0</td><td>41.4</td><td>—</td></tr> <tr><td>年度目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>76.7</td><td>77.5</td><td>78.3</td><td>79.1</td><td>80.0</td></tr> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>中学校</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> <tr><td>中・割合</td><td>63.8</td><td>66.6</td><td>53.2</td><td>—</td><td>30.8</td><td>21.7</td><td>—</td></tr> <tr><td>年度目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>64.2</td><td>64.4</td><td>64.6</td><td>64.8</td><td>65.0</td></tr> </table> </div> </div>	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	小・割合	75.1	75.9	71.4	—	48.0	41.4	—	年度目標値	—	—	76.7	77.5	78.3	79.1	80.0	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	中・割合	63.8	66.6	53.2	—	30.8	21.7	—	年度目標値	—	—	64.2	64.4	64.6	64.8	65.0	<p>【原因分析】 毎年、県として行っている小・中・高等学校体育調査の結果から、新型コロナウイルス感染症対策のため、学校における体育的行事を含めた体力向上に対する取組が減少していることが分かった。 令和3年度も体力向上に対する取組を以前の状況に戻していない学校が多く、このことが令和4年度において目標達成した学校が減少している一因と考えられる。 体力の向上には、学校における体育的行事を含めた体力向上に対する取組のほか、児童生徒が運動やスポーツを好きになり、体育授業以外でも体を動かすことが重要である。 児童生徒が発達の段階と運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえるよう、体育授業をより充実していく必要がある。</p> <p style="text-align: right;">保体</p>
	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																										
小・割合	75.1	75.9	71.4	—	48.0	41.4	—																																											
年度目標値	—	—	76.7	77.5	78.3	79.1	80.0																																											
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																											
中・割合	63.8	66.6	53.2	—	30.8	21.7	—																																											
年度目標値	—	—	64.2	64.4	64.6	64.8	65.0																																											
<p>●体力の目標達成状況 体力テスト8項目中5項目以上個々の目標を達成した児童生徒の割合（％） [出典：埼玉県児童生徒の新体力テスト]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>小学校</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> <tr><td>小・割合</td><td>54.2</td><td>54.1</td><td>49.1</td><td>—</td><td>—</td><td>45.6</td><td>—</td></tr> <tr><td>年度目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>54.1</td><td>54.7</td><td>55.0</td><td>55.0</td><td>55.0</td></tr> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>中学校</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> <tr><td>中・割合</td><td>53.0</td><td>54.2</td><td>47.6</td><td>—</td><td>—</td><td>46.4</td><td>—</td></tr> <tr><td>年度目標値</td><td>—</td><td>—</td><td>53.4</td><td>53.6</td><td>53.8</td><td>53.9</td><td>54.0</td></tr> </table> </div> </div>	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	小・割合	54.2	54.1	49.1	—	—	45.6	—	年度目標値	—	—	54.1	54.7	55.0	55.0	55.0	年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	中・割合	53.0	54.2	47.6	—	—	46.4	—	年度目標値	—	—	53.4	53.6	53.8	53.9	54.0	<p>【原因分析】 令和2年度は調査が実施できず、前年度の数値から目標設定するため令和3年度も指標の測定ができなかった。 令和4年度は、令和元年度と比べて、高等学校においてはほぼ横ばいだったものの、小・中学校においては、個々の目標を達成した児童生徒の割合は低下した。 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、生活習慣の変化（スクリーンタイムの増加等）、慢性的な運動不足と肥満傾向の児童生徒の増加が影響していると考えられる。 ただし、中学校は、部活動の活動制限が解除されてきたことで、小学校に比べると、体力の低下が抑えられていると考える。 引き続き、体育授業の充実とともに、児童生徒の運動習慣の確立に向けた取組を推進する必要がある。</p> <p style="text-align: right;">保体</p>	
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																											
小・割合	54.2	54.1	49.1	—	—	45.6	—																																											
年度目標値	—	—	54.1	54.7	55.0	55.0	55.0																																											
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																											
中・割合	53.0	54.2	47.6	—	—	46.4	—																																											
年度目標値	—	—	53.4	53.6	53.8	53.9	54.0																																											

学識経験者の 意見・提言	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響下の体育的行事を含めた体力向上に対する取組の中止・減少が指標の達成を阻んだことは明らかであるが、体力の向上のためには、無理なく継続して取り組むことができる事業の展開が重要になってくるであろう。そのためにも、児童生徒一人一人が新体力テストの結果や体力プロフィールシートの活用を通して、自分自身の目標設定を行っていくことは重要である。その上で、運動が得意な児童生徒の力を伸ばし、運動部活動に打ち込みたいという生徒の要望に応じていく一方で、あまり運動が得意ではない児童生徒に体を動かすことの楽しさを伝えていくという、二本立ての取組が今後も展開されることを期待する。</p>	
	<p>コロナ禍で体育的行事が一時的に減少したことはやむを得ないことであり、新型コロナウイルス感染症の収束後は改善されていくものと思う。ただし感染症のまん延以降外出することが少なくなったこともあり、肥満傾向の児童が増加している。運動好きな児童生徒育成検討委員会の活動等、児童が前向きに運動に取り組むような活動を増やしていただくことを期待する。</p>	
今後の取組	<p>文化部活動指導員については、今後も希望する学校への配置を実施し、専門性を有する地域の指導者を活用した教育活動の推進について、引き続き研究していく。</p>	高指
	<p>学校における体育の授業や体育的活動について、徐々にコロナ禍前の状況に戻すとともに、外部指導員を活用するなどし、より質の高い活動となるよう教員研修等の充実を図っていく。また、体育の授業等を通して、運動好きな児童生徒を育成する目的で作成したリーフレットや動画を有効に活用し、運動が得意な児童生徒の力を伸ばすだけでなく、運動が得意ではない児童生徒にも体を動かすことの楽しさを伝えていく二本立ての取組を推進していく。</p>	保体
	<p>「部活動における実施状況調査」の結果を基に各市町村における部活動の実施状況を把握し、適切な部活動運営が行われるように引き続き支援していく。また、市町村教育委員会に対して部活動指導員による成果等を周知し、希望する市町村に対してより一層適切な配置を進め、顧問教員の負担軽減を図っていく。</p>	義指